

# 趣旨説明

東京大学大学院農学生命科学研究科  
教授・溝口勝

コロナ禍

地方／地域の見直し

農村地域の通信インフラ

IoT/ICT/AI/DX

スマート農業

大規模/小規模

家族農業 小規模農業

2014：国際家族農業年(IYFF:International Year of Family Farming)

2019-2028：国連家族農業の10年（DFF:The UN Decade of Family Farming）



新しい農業・農学

図	説明
1	世界の農場数の <b>90%以上が家族農業</b> である。
2	家族農業は <b>世界の農地の70-80%</b> を占めている。
3	世界の食料の <b>80%以上を家族農業が供給</b> している。
4	農村地帯で極度の貧困状態ある人々の約40%が森林で生活している。
5	世界で漁業を営む1.4億人の90%は、小規模な家族漁業である。
6	家族漁業は魚介類の消費量の60%以上を供給している。
7	世界で2-3億人と推計される牧畜家は、地球の地表の3分の1を占める土地で牧畜や移牧。遊牧を営む。
8	世界の農業経営体の <b>72.6%が経営規模1ha未満</b> であり、84.8%が経営規模2ha未満である。
9	経営規模別の農業経営体数の割合は、地域によって多様である。
10	女性が経営する農業の規模は、男性が経営する農業よりも50-66%小さい。
11	世界の貧困・飢餓人口の <b>約80%が農村地域で生活</b> しており、その大部分が農林水産業を生業としている。
12	日本の農業経営体122万のうち <b>家族経営体は118.5万(97%)</b> である。
13	日本の農業経営体で1ha未満が占める割合は52.8%、5ha未満は91.1%である。

